

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

小児がん患者在宅移行の円滑化促進と

在宅療養における課題とニーズ把握のための研究

研究分担：小児がん患者と家族の経済的負担についての検討
分担研究報告書

研究分担者 余谷 暢之 国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科・診療部
名古屋祐子 宮城大学看護学群 小児看護学・准教授

研究要旨

本研究の目的は小児がん患者の経済的負担の実態を把握し、その軽減に向けた対策を検討することである。今年度は調査を実施するにあたり、効果的な研究手法について先行文献及び専門家討議をもとに検討を行い、計画を立てた。次年度以降さらに内容について検討し、研究実施する予定である

A. 研究目的

小児がんは、治療のため長期入院を必要とするために、患者家族は様々な負担を抱えることになる。中でも経済的負担は、こどもと家族にとって深刻な課題である。国立がん研究センターが行った小児がん患者の患者体験調査（2021年）によると、医療費を確保するために生活へ何らかの影響があった人は41.7%であり、医療費以外に経済的負担が大きいものとして交通費60.7%、付き添い家族の生活費・宿泊費57.8%などがあげられている。また、患者のケアのために仕事や働き方を変えたご家族がいた人は65.5%で、休職・休業した人は35.7%、退職・廃業した人は32.8%という結果が報告さ

れている。

成人のがん領域では具体的な経済的負担の額を明らかにし、支援につなげているが小児がんについてはそういった研究は行われていない。

本研究は、小児がん患者の経済的負担の実態を把握し、その軽減に向けた対策を検討することを目的とする。今年度は調査を実施するにあたり、効果的な研究手法について検討することを目的とした。

B. 研究方法

先行研究や専門家討議を行い、効果的な研究手法について検討を行った。

（倫理面への配慮）

今年度については探索的な研究であり倫理面への配慮は特になし

C. 研究結果

① 研究の方法について

小児がん拠点病院など小児がん治療施設に入院する小児がん患者の家族を対象にして研究を行う。具体的には、家計簿や領収書を見ながら金額を記入する自記式調査を計画している。リアルタイムで入力できるように、紙媒体だけでなくオンライン入力ができるような仕組みの開発を行っている。

② 間接医療費の項目について

先行研究を基に、具体的な間接医療費の項目について検討し、以下の項目を検討している。

- ・ 通院にかかる交通費
- ・ 付き添いにかかる諸経費（食費、宿泊費など）
- ・ 仕事を休職している場合はその間に得られたであろう賃金
- ・ きょうだいがいればきょうだいの保育費用

D. 考察

次年度以降、さらに内容について検討し、実態調査を行い実態把握に努める。

E. 結論

先行研究や専門家討議を行い、効果的な研究手法について検討を行った。

F. 健康危険情報

特記すべきことはなし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし